



創刊号
平成27年9月5日発行 No.001
フリーペーパー
編集発行: ATTS LLC 'Almama'編集部
〒541-0046
大阪市中央区千鳥町2-12北館748

見方百景

「介護で出会えた新しい愛」
米沢市 金田 江里子氏

家族の健康を願った母

母は、「健康第一」のポリシーを決して曲げない人でした。私たちが姉妹には化学調味料や人工甘味料、人工着色料を使ったお菓子、インスタントラーメンは食べさせず、プラスチックの食器も使いませんでした。ただ、銀行マンで家

た。翌年生まれた次男は、すっかりおぼあちゃんになりました。母の様子がおかしくなったのは、長男が小学生、次男が幼稚園に入る頃でした。財布や物を失くしては「知らない？」と聞くことが増え、いつしか「盗られた」と犯人探しを始め、その矛先を家族に向けました。友達や近所の人、親がれなしに物を盗られたと電話しました。父が近所の女性と浮気をしているという妄想も始まりました。

から雑巾を投げる、車のトランクにゴミを詰め込む。あげくには「お前の目の前で死んでやる！」「どうぞ、死んでください」の大喧嘩になりました。私はストレスで右手が上がりなくなり、夜中に突然母が部屋に入ってくる夢に怯え、体調も狂いはじめました。それでも、家族は親子喧嘩ぐらいにしか思っていなかったようです。

翻弄された母との日々

両親の家を離れても、私は母から解放されず迷惑をかけた人に謝り、母が突然訪ねて来るのではと怯えていました。父は母を断行や

コンサートに誘い、母が唄んでいたかもしれない夫婦らしい暮らしに気を配りました。しかし、電話機はおさまらず、電化製品が使えない。料理ができない、同じものを買う。訪問販売で高額商品を購入するなど認知症状は進みました。父は固定電話を解約し、携帯電話を持つようになりました。父の筋力障害が再発して入院したのは、それからほどなくです。残された母は夜中に「父がいない」と近所を探したり、吹雪の中を病院まで出かけたそうです。母の台所にはカゴの生えたパンが山積みになり、捨てようとすると思惑したそうです。仲の良い近所の方がよく一緒に食事をしてくれて、妹もたまに様子を見に行ってくれました。私は、まだ怖くて家には行きませんでした。

ア。しかし、母は頑なに拒み1ヶ月遅れてやっと同じ施設に入りました。母の入所を見届けるように、その後1年もせず父は旅立ちました。父のお葬式の日、母からは「今日は何のパーティーなの？」と聞かれました。

懐かしい母の涙と笑顔

残された母は、忙しい施設職員のおかげで無表情に椅子に座っていました。続けてきたフラダンス教室へ行っていただけが、母の時間でした。私は毎週1度送り迎えをしました。帰っている母はほんとうに楽しそうでした。しかし、振り仮名をもらえず、発表会にも出られず、仕事のある私の送り迎えも続きません。フラダンス教室に行けなくなった母の体力は衰え、歩けなくなって行きました。入所5年目、母をグループホームに移しました。明るく若い職員

や仲間のおしゃべり、笑い、歌い、いつのまにか体力も食欲も増し、再び歩けるようになり、人間らしい楽しさが母をよみがえらしました。そんな時、福祉デザインの仕事を通じて仙台富沢病院の佐々木英志先生、藤井昌彦先生の情動療法に出会いました。演習情動療法のモニターに通い、客観的に認知症の方々に接するうちに気持ちが変わってきました。「寝たきりになればおとなしくなる?」「早くいなくなれば…」といった思いは消えました。私と母の思いは合わせ鏡。不安と孤独から「どうぞ、私が早く死ねばいいと思っているのだから」という母の心の叫びに、怯えた私は案ずる娘の心を忘れていました。母は尊厳を認め、思い合う普通の暮らしを探していたのです。私の心が変わると、母の言葉も変わりました。認知症でも、喜怒哀楽や人を思いやる心は生きてい

ます。情動療法の刺激で、娘や孫の健康を願っていた懐かしい母の笑顔が時々戻ってきました。そんなある日、母がご飯を食べず「おなか痛い」と訴えました。検査の結果は余命2ヶ月の末期癌。残された時間は短い。緩和療法を選びました。痛みが取れると表情は穏やかになりましたが、眠っている時間も多くなりました。眠り続ける母に、よく歌っていた童謡を聞かせると、好きな曲でパッと目を開けました。声にならない声で口ずさみました。孫が手をさすると、とても嬉しそうにニコニコと笑っています。その日も童謡を聞かせながら手をさすると、母が目を覚まし私と孫の顔を見てにっこりしながら歌を口ずさみました。ところが、フッと顔をしかめて涙を流しました。「どうして泣くの?」私も笑いながら泣きました。2日後、母は旅立ちました。



信頼し合える親子に現り、過ぎた別れの日々を思うと、私は最後に見せた母の涙と笑顔には、認知症の影はなかったと感じています。思い出は今、私を力強く支えてくれます。(次号では、情動療法について特集します。)

Almama 第2号
平成27年11月5日発行 No.002
フリーペーパー
編集発行: ATTS LLC 'Almama'編集部
〒541-0046
大阪市中央区千鳥町2-12北館748

認知症治療最前線
ここを温め、情感豊かな暮らしを支える
~非薬物療法で蘇るその人らしい笑顔~

「なりたくない病気ナンバーワン」の認知症だが、増加は避けられない現実として、我々に迫ってくる。その時代を背景に、認知症専門病院仙台富沢病院では2004年より「認知症情動療法」に取り組んで来た。今回、その普及を目指して開催された第1回「認知症情動療法 入門セミナー」から、情動療法とは何かを探ってみた。



情動療法が広く普及する基盤になるのが、「情動療法検査」キット(発行:ユニケア 製作:デザインtree)だ。このキットにより、認知症患者に残る情動(EQ)が測定可能になった。認知症患者の残る情動が数値で検証され、情動療法ケアの効果も可視化できる。現在、非薬物療法に積極的に取り組む病院や施設では、すでに情動療法ケアは始まっている。今後ユニケア・tree両社は、情動療法の推進母体となる社団法人設立の準備を進めている。設立を機に本格的な情動療法プログラムの開発に取り組み姿勢を示し、広く臨床現場への協力を呼び掛けていく方針だ。同キットは、五感による情動機能検査と総合的情動機能検査により「生活の中で見られる表情」「人情への反応」「社会規範への反応」「幸福への反応」「社会現象への反応」「不安への反応」を30点満点で採点する。この採点に基づき、情動を刺激するリハビリ療法プログラムを体験してもらい認知症患者の情動的安定を高め、生活を

的向上させる。情動療法による効果は、認知症の「周辺症状(BPSD)」と呼ばれる攻撃的行動、徘徊、拒絶、妄想、睡眠障害などの減少とコミュニケーションの回復、IQの上昇など、ケアプログラム実施後の再検査で確認される。セミナーでは、基本的な情動療法の解説に続き、treeの金田氏が取り組んできた演習(演習)療法の事例が動画で紹介されました。閉鎖された物語に感動した認知症患者が、共感や自己の思い起こされた体験を語り、互いの話しに耳を傾ける時間を共有するなかで笑顔がうまれ、交流の広がる様子が見られました。人とつながり、認め合い、体験に共感し、不安や孤独から解放されて行く姿は、高齢者には語り合える人生がたくさんあることを感じさせます。施設や病院で無言のまま座り続ける姿が、いかに不自然かを思い起こさせます。情動療法ケアの効果により認知症患者に笑顔がよみがえり話しかけてくるようになると、介護職員のモチベーションも高まること報告されました。介護現場で様々な問題に直面しているセミナー参加者の多くが、それぞれの体験の中で断片的に感じてきた患者の反応や心の様子が、医学的・体系的に示され理解力のあるセミナーとなり、情動療法への積極的な取り組みが支持されました。

情動(EQ)誕生から百万年 生命を支えてきた力
情動(EQ)は、そもそも人間の進化に大きな役割をはたしてきた知性で、恐怖や興奮などに関係し、理性を越えます。長い進化の歴史の中で生き残るためには、生命の危機に備えたとき反動的に行動する能力が生死を分け、その遺伝的素質に優れた人間が勝ち抜き、高い能力を持つ子孫が生き残り続けたと考えられています。そのため脳の中で情動の神経回路は基本構造となり、百万年かけて完成してきたとされています。

情動(EQ)は、本質的には行動を起こそうとする衝動で、脳に刻まれた反動的な行動指針です。たとえば、怒りを感じると、血液は両手に集まり握りかかると準備をします。恐怖を感じる血液は両足など大きな骨格筋に流れ逃げる準備をし、顔は血の気が引きこみ顔は動けなくなります。この一瞬は脳は大脳の前ホルモンの分泌を命令し、全身をいつでも動けるよう緊張状態を保ち、逃げるべきか、隠れるべきかの最善策を探します。反対に幸福を感じる否定的な感情は抑えられ、愛情や優しい気持ちを持つと副交感神経がめざましく、このようなときは意識に落ちる傾向になります。驚いたら首をのび上げ、確認すると鼻に汗を寄せる万国共通の反応が現れます。これらの行動は、すべて

よみがえる「情動」ケア その種類と特徴
1. 自覚情動療法
2. 想像療法
3. 感覚情動療法
情動療法に関するお問い合わせ先
株式会社ユニケア